

# 比内地鶏の情勢

平成30年3月  
畜産振興課

## 1 飼養動向

### (1) 飼養戸数

・平成20年の149戸をピークに毎年減少しており、29年は、前年比7戸減の99戸となった。うち約8割は、主産地の県北地域が占めている。

### (2) 生産羽数

・全国の地鶏等の台頭による需要の減少を背景に主産地で生産調整が行われ、28年には510羽に減少したが、29年は518千羽と微増に転じた。うち主産地である県北地域における生産羽数は469千羽で全体の9割以上を占めている。

### (3) 1戸当たりの生産羽数

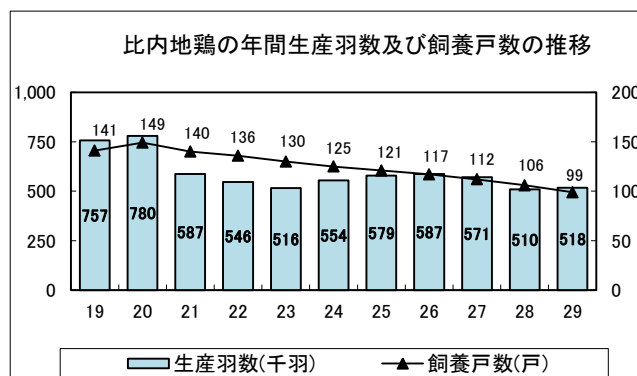
・29年は、前年比9%増の5,232羽となっている。

## ○ 飼養動向の推移

(単位：戸、千羽、%)

年次	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
飼養戸数	141	149	140	136	130	125	121	117	112	106	99
前年比	104%	106%	94%	97%	96%	96%	97%	97%	96%	95%	93%
生産羽数	757	780	587	546	516	554	579	587	571	510	518
前年比	104%	103%	75%	93%	95%	107%	105%	101%	97%	89%	102%
一戸当たり	5,369	5,235	4,193	4,015	3,969	4,432	4,785	5,017	5,098	4,811	5,232
生産羽数	100%	98%	80%	96%	99%	112%	108%	105%	102%	94%	109%

(畜産振興課調べ)



## ○ 市町村別順位 (平成29年)

- ・生産農家数の多い市町村
  - ①大館市(36戸)、②北秋田市(19戸)、③能代市(11戸)、④三種町(6戸)
  - ⑤上小阿仁村、由利本荘市(5戸)
- ・生産羽数の多い市町村
  - ①大館市(248千羽)、②北秋田市(112千羽)、③三種町(46千羽)、④由利本荘市(24千羽)、⑤上小阿仁村(22千羽)、⑥能代市(20千羽)

## 2 流通動向

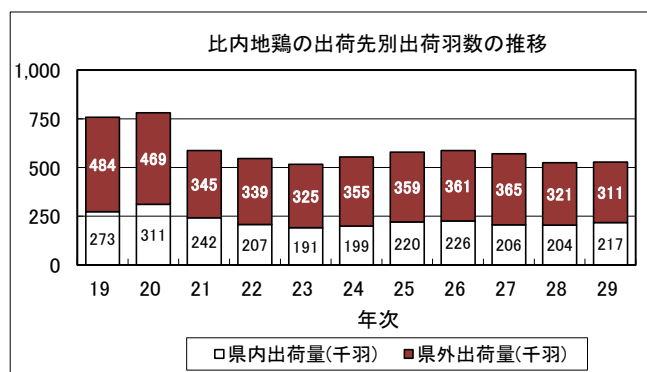
・29年の出荷先別の割合(羽数)は、県内向けが全体の41%(217千羽)、県外向けが前年比2%増の59%(311千羽)であった。

## ○ 流通動向の推移

(単位：千羽、%)

年次	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
処理羽数	757	780	587	546	516	554	579	587	571	525	528
前年比	104%	103%	75%	93%	95%	107%	105%	101%	97%	92%	101%
県内出荷羽数	273	311	242	207	191	199	220	226	206	204	217
構成割合	36%	40%	41%	38%	37%	36%	38%	39%	36%	39%	41%
県外出荷羽数	484	469	345	339	325	355	359	361	365	321	311
構成割合	64%	60%	59%	62%	63%	64%	62%	61%	64%	61%	59%
食鳥処理業者期末在庫									113	21	5

(畜産振興課調べ※食鳥処理業者在庫はH27から調査)



## ○ 出荷先別割合 (平成29年)

